

## 「地域回帰」志向の形成過程とその教育的要因の類型的・数値的解明に関する研究

平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金 H29-31）

研究代表者 出川 真也

（大正大学地域創生学部専任講師）

### 1. 研究概要

「地方創生」において地域社会の担い手の必要性が叫ばれる中、地域の人材育成の方策や方法に関する提言や研究が活発にされている。一方で、地域の担い手と目される人材（以下「**地域担い手人材**」と呼ぶ）がいかにして地域に目を向けるのかといった動機や意欲の形成過程については十分に解明されているとは言いがたい。そのため個別の地域実践において担い手人材の育成方法や受入方策がちぐはぐになりがちな場面が散見される。

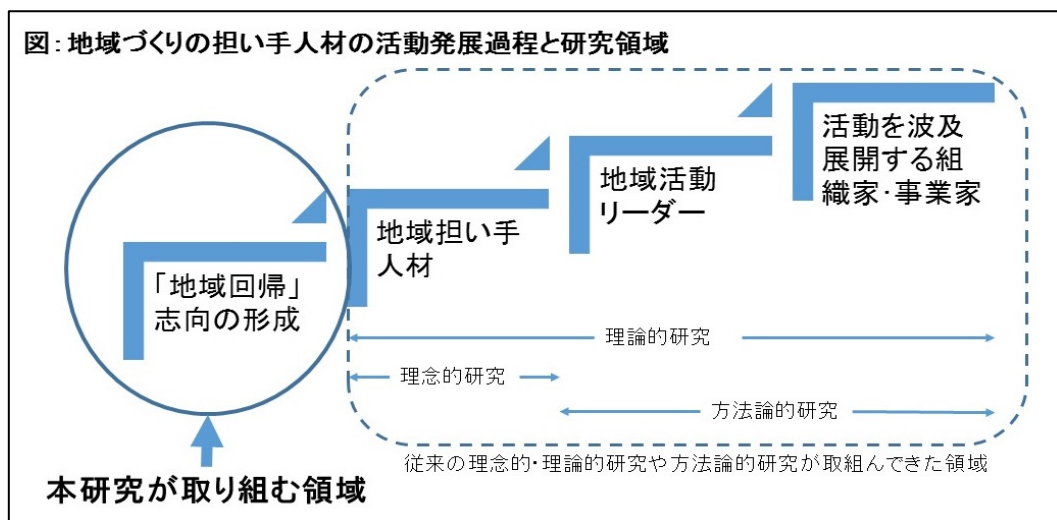
本研究では、地域担い手人材が地域に関心に向ける動機や意欲を「『**地域回帰**』志向」と呼び、この形成過程と要因を教育学的観点から**類型的・数値的**に明らかにするとともに、**人材育成プログラムを開発・実施**し、その効果を検証する。

### 2. 着想に至った経緯

これまで農山漁村の地域づくりにおける教育・人材育成活動に着目して、各地でフィールドワークを行いながら主に社会教育・生涯学習の領域で研究活動を続けてきた。

平成 28 年度は、地域づくり・学習活動団体の人材（担い手）育成と事業継承に関する研究を実施中である。その中で、担い手と目される地元若者、Uターン者、Iターン者のそれぞれで動機や意識・意欲が大きく異なることが分かってきた。このため同一の活動や事業内においてさえも一律の人材育成方法ではよい効果が生み出せないことが明らかになってきた。

これは社会的・地事情を基盤とする従来の社会教育・生涯学習の方法論だけでは限界があることを如実に感じさせるものであった。より個別の人材の背景に着目してその「見える化」を図る必要性が現場で求められている。



### 3. 研究目標

本研究では、地域づくりにかかわる担い手人材を対象にして以下の3点を解明する。

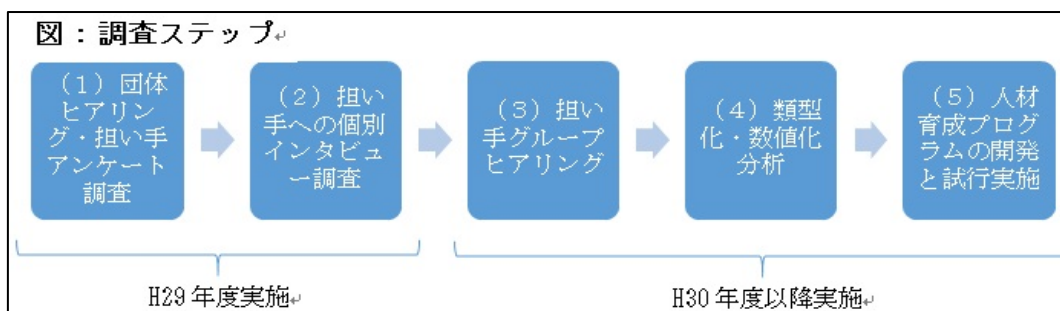
- ①地域づくり活動に参画する地元若者、Uターン者、Iターン者の「地域回帰」志向の形成過程と教育的要因を明らかにし類型化する。
- ②類型を構成する教育的要因の影響度合いをその共通度や強さに応じて数値化する。
- ③得られたデータや知見を利用して、「地域回帰」志向を向上させる人材育成カリキュラムを開発し試行実施して効果検証を行い、その有意性を明らかにする。

### 4. 研究計画・方法

地域特性の異なる国内6地域を調査地として設定する。これまでの研究でつながりのある各地域の地域づくり・学習活動団体を対象にして以下5つの調査を実施する。

- (1) 活動団体へのヒアリングと**地域担い手人材**に対するアンケート調査
- (2) 地域担い手人材に対する個別インタビュー調査
- (3) 複数の担い手人材を交えたグループヒアリングの実施
- (4) 「**地域回帰**」志向の形成過程と教育的要因の**類型化・数値化**
- (5) 上記の調査結果を踏まえて開発した**人材育成プログラム**の試行実施

各段階の現地調査前に地域創生学部学生の協力による試行を行い調査精度の向上を図る。



### 5. 研究体制

国内6地域を中心に、現地活動者の皆さんと共に調査と試行実践を行いながら研究を遂行していく。

